

震災レポート 「支える日本・見つめる世界」

CGでも画けない様な津波の映像を見て世界中が凍りつきました。命からがら生き延びた25万人の被災者が、生きる希望を失いかげ途方にくれています。

当NPO法人サークル i では即刻、会員の20歯科医院の協力を得て募金箱での義援金集めを開始し、既に歯ブラシ2万2千本を被災地に送りました。チリ落盤事故の時もそうでしたが、歯ブラシは被災者からの要望品としては上位に入ります。阪神淡路の震災では誤嚥性肺炎で多くのお年寄りが亡くなりました。劣悪な避難生活の中では口腔衛生状態が低下します。これは全身の免疫力を低下させ慢性疾患等も悪化させます。

長期化を予想される避難生活に今後も微力ではありますが、支援の手を差し伸べてまいります。今、被災者が頑張るのではなく、私たちがガンバル時です。

ところで、今回の津波は原発の破壊という非常に厄介で、日本では未経験の深刻な事態が起きています。現場で見えない敵と決死の戦いを続ける作業員には頭が下がります。被爆国として「放射能」に敏感になるのは当然ですが、テレビで放射線を理解しないコメンテーターが恐怖をあおる様な発言や、逆に関係学者の火消発言もあり、報道も混乱していました。

強い放射性物質を吸い込んで体内被爆するのは問題ですが、我々は自然界から常に放射線を浴び続けています。微量放射線の出るラジウム温泉、ラドン温泉にわざわざ出かけていきますし、また飛行機の搭乗員は年間相当量の宇宙線にさらされますが、ガンの発生率に違いはありません。物資を運ぶ運転手が原発周辺市町村に行かないというような笑えない話がありますが、風評被害は新たな災害となりえます。医療用のレントゲンはデジタル化や高感度化で線量も低減化され、大きな有用性からこれなしでは歯科医療は成り立ちません。

放射線はいたずらに怖がるより正しく理解する事が第一です。相手が見えないものだけに、第三者機関がしっかり計測し正確な情報を常に開示してもらいたいものです。

(石井 2011.3.29記)

日本の復興を世界が見つめています。 がんばるぞ！ ニッポン！！

